

■ ■ ワークションモニターツアーを実施、交流人口の増加へ



市が観光協会に業務委託をした「ワークションモニターツアー」が、1月24日から3泊4日の日程で開催されました。

ビックボイス株式会社（本社・東京都）の各事業所より社員10人が参加し、炭鉱遺産見学や観光を楽しみながら、市内の共用ワークスペースで仕事に取り組んでいました。

ツアー最終日には、市内の自然や食、温泉などの地域資源を活用したワークションを検証するための意見交換会を、「風の谷 野のおもひで館」のワークスペースにて実施。

参加者は、陶芸体験や上金剛山展望台でスノーシューを履いて散策するなどして撮影した写真を紹介しながら、感想や意見を述べていました。

■ ■ 青少年健全育成市民の集い 文化、スポーツで活躍した児童生徒を顕彰

2月5日、芦別市青少年健全育成市民の集いが総合福祉センターで開催されました。

これは、文化・スポーツ活動において全道大会で3位入選以上、北海道代表として全国大会に出場した児童、生徒を顕彰するもので、今年度の対象者は文化活動2人、スポーツ

活動4人のほか、「青少年の日」にちなんだ作文の入賞者6人、「青少年育成運動」啓発標語の入賞者9人に表彰状とメダルが贈られました。

各賞の贈呈後に、作文で特選に選ばれた佐藤陽菜香（芦小6年）さんと石原獅音（啓成中3年）さんが作文の朗読を行いました。



■ ■ 吹奏楽クリニックの成果を披露 合同演奏会を開催



2月5日、星の降る里ウィンズバンドプロジェクト主催による「吹奏楽合同演奏会」が市民会館で開催されました。

これは、各吹奏楽団体の交流と演奏技術のレベルアップ、音楽文化の発展を目的に2008年より毎年開催されているものです。

コロナ禍で3年ぶりとなったクリニックが、1月28、29日と2月4、5日に、道内の著名な音楽家を講師に招いて行われ、最終日の合同演奏会では、芦別高校吹奏楽局、芦別市民吹奏楽団、芦別・赤平両市の中学生、総勢46人が、練習の成果を披露しました。

■ ■ いじめのない学校をテーマに市内児童・生徒が「子ども会議」

「いじめのない学校をめざして～誰もが嫌な思いをしない学校にするために～」をテーマに、芦別市仲間づくり「子ども会議」が2月14日、総合福祉センターで開催されました。

昨年10月に開催した空知管内の学校をオンラインで結んで行われた「どさんこ子ども地区会議」の報告

が各中学校生徒会より行われたほか、絆づくりメッセージコンクールの入選作品の紹介がありました。

会議には、小・中学校の代表7人が参加し、コミュニケーションの必要性や先生にはアドバイスの場を作ってもらうなど、いじめをなくす取り組みが話し合われました。

